

## 紫斑病・マメシクイガの適期防除を!



### 1 気象・生育概況（7月29日現在）

7月は降水量が平年より少なく、気温は概ね高く推移（アメダス鷹巣）したことから、中耕・培土の作業は順調に進んだと見られます。

調査ほ（5か所）の生育は、主茎長33.3cm（平年36.7cm）、葉数9.0葉（平年8.6葉）、分枝数37.7本/m<sup>2</sup>（平年10.9本/m<sup>2</sup>）となりました。

7月前半は乾燥傾向で主茎長が短く推移しましたが、後半は日照が少なく主茎長が伸長し、7月末では平年の9割程度になりました。また、7月下旬の高温多照により、分枝の生育は旺盛になったと考えられます。

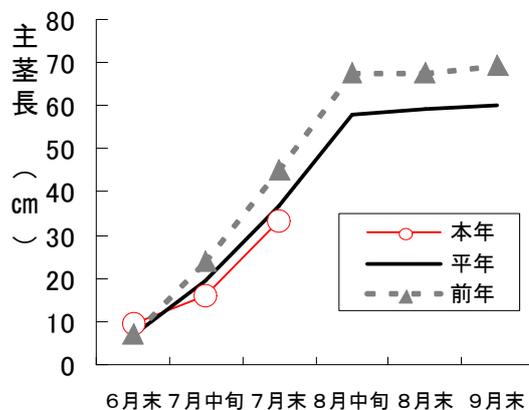


図 主茎長の推移

### 2 中耕・培土

最終の中耕・培土は、開花期前に終了します。開花期後の作業は、花落ちや断根による生育停滞の原因になるので行わないようにします。

畦間等の雑草については、**4 除草対策**を参考にしてください。

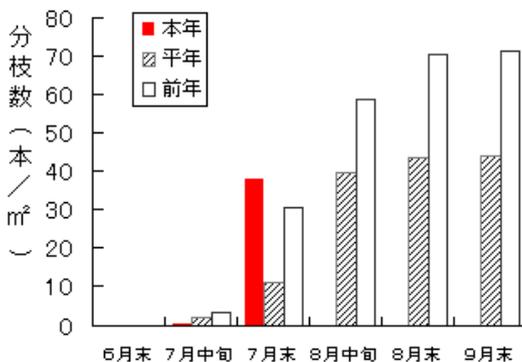


図 分枝数の推移

### 3 干害・湿害対策

大豆は、開花期～子実肥大期にかけて最も水分を必要とする時期となります。基本的には、暗きよの栓を閉めて土壤水分保持に努めてください。

乾燥時に畝間かん水を行う場合、水位は畝の高さの1/2程度として、30a以上の大きなほ場の場合はほ場を2～3区画に分けて、2～3日かけてかん水し、畝の崩壊や湿害を防止してください。ほ場全体に水が行き渡ったら水口を止め、速やかに排水してください。気温、地温の低下する夕方から夜にかけて作業を行ってください。

一方、大雨等により冠水・浸水した場合は、明きよの溝を補修するなど、速やかな排水に努めてください。

### 4 除草対策

中耕・培土作業終了後の畦間等の雑草は、畦間処理剤等により補完対策を行います。

	農薬名	使用時期および 使用薬量（10aあたり）	希釈水量 （L/10a）
畦間処理	大豆バサグラン液剤※	だいたず生育期、収穫45日前 300～500mL	100
	ザクサ液剤	だいたず8葉期～収穫28日前 300～500mL	100～150
	ラウンドアップマックスロード	だいたず8葉期～収穫前日 200～500mL	25～50
畦間・株間処理	バスタ液剤	だいたず6葉期～収穫28日前 300～500mL	100～150
雑草茎葉兼土壌散布 （畦間・株間処理）	ロックス	だいたず3葉期～収穫30日前 100～200g	70～150
雑草茎葉塗布	タッチダウンiQ	生育期、収穫7日前 0.1mLを1～3か所/株	2倍希釈

※適用品種はリュウホウとする。

## 5 病害虫対策

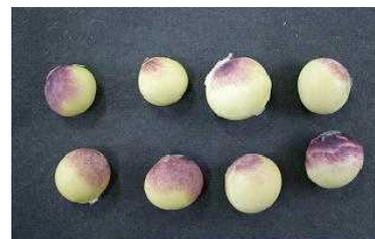
現在、ツメクサガ等の食葉害虫の被害が散見されています。高温年はこれらの害虫の発生が多くなることから、ほ場の状況を十分観察し防除対策を徹底してください。

防除は、使用薬剤のラベルを確認してから行い、周辺農作物へ農薬が飛散しないよう細心の注意を払って作業します。

### 【紫斑病】

開花期20～30日後までに薬剤散布を行ってください。播種時期により開花期が異なるため、ほ場ごとの開花状況を確認し（管内平年開花盛期：8月4日）、散布作業を計画してください。

アミスター20フロアブルは県内で耐性菌の発生が確認されています。薬効低下の恐れがあるほ場では使用を避けてください。



↑紫斑粒

薬剤名	希釈倍数・使用量		使用時期等
トライフロアブル	1,000倍	[10a散布量]	1～2回（1回防除が基本。着莢期に降雨が多い場合は2回防除） 1回目：開花期の20～30日後 2回目：1回目の約10日後
ベルコート水和剤・フロアブル			
ニマイバー水和剤*	1,000～2,000倍	150～300L	
プランダム乳剤25*	3,000～5,000倍		
Zボルドー	500倍		
Zボルドー粉剤DL	3kg/10a	—	

※ニマイバー水和剤、プランダム乳剤25：耐性菌出現回避のため各1回の使用とする。

### 【ツメクサガ】

年2回発生し、葉脈を残し葉を食害します。第2世代幼虫は8月に発生し、葉ばかりでなく莢も食害します。今後の薬剤による防除は、8月上旬～中旬にエルサン乳剤1,000倍、トレボン乳剤1,000倍、フェニックスフロアブル4,000倍液を100～300L/10a散布します。

### 【マメシクイガ】

成虫は8月20日頃から確認され、9月始めに発生ピークを迎えます。莢表面に産卵し、ふ化した幼虫が莢内に食入しクチカケ豆を作ります。薬剤は莢に十分に付着するよう散布します。

薬剤名	希釈倍数・使用量		使用時期等
アグロスリン乳剤	2,000倍	[10a散布量]	8月下旬～ 9月上旬 (1回)
アデオン乳剤			
パーマチオン水和剤	2,000～3,000倍	150～300L	9月上旬 (1～2回)
トレボン乳剤・EW、エルサン乳剤、 スミチオン乳剤	1,000倍		
プレバソフロアブル5	4,000倍		
グレーシア乳剤	2,000～3,000倍		
トレボン粉剤DL	4 kg/10a		



↑クチカケ豆

### 【フタスジヒメハムシ】

結実後の8月下旬～9月下旬に成虫が莢を舐めるように食害し、直下の子実表面が黒変するので品質が低下します。

薬剤名	希釈倍数・使用量		使用時期
トレボン粉剤DL	4 kg/10a		8月～9月
アグロスリン乳剤	2,000倍	[10a散布量]	(着莢期 ～子実肥大期)
トレボン乳剤	1,000倍		



↑フタスジヒメハムシ成虫

\*内容についてのお問い合わせは、農業振興普及課 (Tel 0186-62-1835) へご連絡下さい。